

令和8年度 大分大学総合型選抜入試問題

小 論 文

(福祉健康科学部)

福祉健康科学科 心理学コース

解答時間 90分

配 点 200点

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和8年度 (2026年度)  
大分大学福祉健康科学部 総合型選抜入試問題  
福祉健康科学科 心理学コース

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

和敬清寂の「和」は、仲よくするということであります。仲よくすることがなければ、お茶室の世界に入る資格がない。

これはお茶の世界だけでなく、家庭においても、お父さん、お母さん、子供たちが仲よくしていく、そういう和やかな心が、めいめいになければならない。それが家庭の平和というものでありますし、それが社会の安穩につながっていき、大きくいきますと、世界の平和につながっていくことになります。

いかに政治をよくしても、社会の制度を変えてととのえても、一人一人からみんなと仲よくしていくという和やかな気持ちが失われますならば、世のなかには平和にはなりません。制度を悪用したり、法律の隙間をぬっていこうとする人が出てしまう。ですから、まず、和やかな心を自分が持つということが、物事の根本であります。とくにお茶の世界はそうです。ご亭主とお客さまとの心が、和やかに通じあわなければなりません。

では、その和やかな心はどういうふうにして生まれるかといいますと、これが和敬清寂の「敬」から生まれてきます。

ただ仲よくしなければならんから、仲よくしておるということではありません。それは「付和雷同」というにすぎない。それは本当の和ではありません。本当の和は、お互いに尊敬しあうところがなければなりません。おなかの中でお互いに馬鹿にしあっておって、そして仲よくしたって、それは本当の平和じゃありません。

これは人間対人間の場合だけではございません。物に対してもそうです。一つのお茶碗<sup>わん</sup>を見る。ちょっといびつなお茶碗<sup>わん</sup>だなあと思っても、それは生まれてから、いろいろな人の手に触れて、今日そこにある。割られずに今まで大事にされてきたお茶碗<sup>わん</sup>である。こういう点から見ますと、一つのお茶碗<sup>わん</sup>に対しても尊敬の念がでできます。尊敬の念がでますと、いびつなものはいびつなりに、それもこれも面白いなど、見る心の余裕がこちらに生まれてまいります。

ですから、お茶室の中に入ると、どんな道具を見ましても「結構なお道具でございます」と、心からいえます。おじょうずでいっておるのではない。いちばん簡単なのは、お茶室に入ったら何でも「結構ですね」とほめておったらいいんですけども、それは本当のお茶の精神ではございません。

人間に対するのと同じように、お道具の一つ一つに対しても「敬」する思いをもつ。そうすると、欠けたお茶碗<sup>わん</sup>も、欠けたところを金でついであるのも、これまた景色になって、よろしいということですね。

とにかく、お互いに尊敬しあうところがなくてはなりません。それなら、その敬というものは、どうしたら生まれてくるか。どうしたら人さまを尊敬し、物を尊敬する心が生まれるか。

それは、和敬清寂の「清」からであります。これは滑らかさ、また、すがすがしさ、とも読めます。心の中が、今日の秋晴れのようにすがすがしく、清らかでありますと、ものに対する尊敬の念が生まれてくる。「去年、あのとき私がこういったのに、あの人はこんなことをいった。許せん。思い出しても腹が立つ」と、こちらの心の中に、なにかわだかまるものをもっておりますと、尊敬できんわけであります。そういう心を捨て去って、一点の曇りさえもないような、さわやかな、すがすがしい心で<sup>かたい</sup>相対しますと、おたがいにその人のよさを発見することができるものです。

そして、どうしたらそのすがすがしい心になっておられるかという、これが和敬清寂の「寂」からです。

(中略)

「あれ欲しい、これ欲しい」「ああして欲しい、こうして欲しい」といった貪りの心がおさまり、腹立ち、怒りの心がおさまり、また「ああすればよかった、こうすればよかった」とか、「ああしてやったのに、こうしてやったのに」と、というような愚痴の思いがおさまってしまう。古人が、「ああしてやった、こうしてやった、やった、やった、やったで地獄行き」

と、うたったようなことがなくなって、まことに静かにおさまった心、それを「寂」というわけでありませう。絶対平和の世界といってもいい。

国と国とが戦争をしないというのも、平和でありますけれども、国民一人ひとりが貪らない、怒らない、愚痴を言わない、そういう心の炎が燃え出すことがない、そうなったときに、本当の平和が来る。(中略) 欲望のない静かな「寂」の心境でおりますと、「清」のすがすがしさの中にあることができる。

そのすがすがしさの中におりますと、相対するものに対して「敬」の念が出てくる。いたらぬものは、いたらぬもののよさが見える。その事、その物の美点というものを発見することができる。そこで、みんなと「和」すことができる。

(出典：河野太通、『まあ、お茶でも飲んでゆきなされ』、春秋社、2015年より抜粋・改変)

問1 仲よくするための著者の考えを300字以内(句読点を含む)で述べなさい。

問2 問題文をふまえた上で、仲よくするためのあなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。